



次期北区区ビジョンまちづくり計画策定に伴う
ワークショップ企画運営業務

報告書 (抜粋)

令和4年7月
NPO法人まちづくり学校

〈1〉事業の趣旨・目的

北区が目指す区のすがたの実現に向けたまちづくりの方向性について示す、「北区区ビジョンまちづくり計画」は令和4年度末で計画期間が終了する。このため、北区では次期計画を策定することになっている。策定を進めるにあたり、都区に若者から幅広い意見をお聞きし、計画に活かしていくことを目的として開催する。

〈2〉ワークショップの内容

次期計画の策定に係り、次期北区区ビジョン基本方針における4つの目指す区のすがたごとに、これからのまちづくりの取り組みの方向性について、大学生からの幅広い意見を取り入れる。

(1) 参加者

- ・新潟医療福祉大学 学生 10名
- ・新潟食料農業大学 学生 6名
- ・北区職員 6名
- 計 22名

(2) 開催日時

令和4年6月24日（金） 14:00～16:00

(3) ワークショップ会場

菱風荘 体験蔵（北区前新田乙 364-1）

(4) ワークショップの名称

新潟市北区次期区ビジョンまちづくり策定に向けた大学生との意見交換会
北区の未来を考えるワールドカフェ

(5) ワークショップの内容

①手 法：ワールドカフェ方式

その名のとおり『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルでテーマに沿った対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法。

②テーマ：目指す区のすがた ※4つのグループに分ける

- 自然の魅力輝くまち
- 未来へ続く活力あるまち
- いきいきと心豊かに暮らせるまち
- 安心安全で住みよいまち

③ラウンド数：3回

1回のラウンドの時間は20分

3ラウンド終了後、各テーブルでどんな話し合いが行われたのかを発表していただく時間も設ける。

④参加者に出してもらいたい主な意見

- テーブルテーマに対し、どのような取り組み（事業）を行ったらいいか。
- その取り組みに大学生（大学）として、どう関われるか。

⑥当日のプログラムとタイムテーブル

北区 新潟市北区次期区ビジョンまちづくり策定に向けた大学生との意見交換会 の未来を考えるワールドカフェ

日時：令和4年6月24日（金） 14：00～16：00

会場：菱風荘 体験蔵（北区前新田乙 364-1）

参加：新潟医療福祉大学、新潟食料農業大学の学生さん、北区職員（約30名）

運営：NPO法人まちづくり学校 大滝 聡（代表理事）

横尾文子、坂本裕一、渡邊 彩、荒井順也

主催：新潟市北区役所（主幹：地域総務課）

プログラム

時間 内容 ※時間や内容はあくまで目安です。

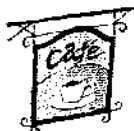
13：30 受付開始

14：00 オープニング ・区長の挨拶
・趣旨説明、ファシリテーターの紹介

14：10 ゆるやかな関係づくりゲーム（アイスブレイク）
緊張を解きほぐすための自己紹介ゲーム

14：20 北区の未来を考えるワールドカフェ

①ワールドカフェの手順とルールの説明（5分）



〈出していただきたい主な意見〉

- テーブルテーマに対し、どのような取り組み（事業）を行ったらいいか。
- その取り組みに大学生（大学）として、どう関われるか。

②意見交換ラウンド1（20分）

③シャッフルタイム（5分）

④意見交換ラウンド2（20分）

⑤シャッフルタイム（5分）

⑥意見交換ラウンド3（20分）

⑦各テーブルの成果発表（15分）

※各発表時間は3分以内

〈4つのテーブルテーマ（目指す区のすがた）〉

- 自然の魅力輝くまち
- 未来へ続く活力あるまち
- いきいきと心豊かに暮らせるまち
- 安心安全で住みよいまち

15：50 全体確認と共有

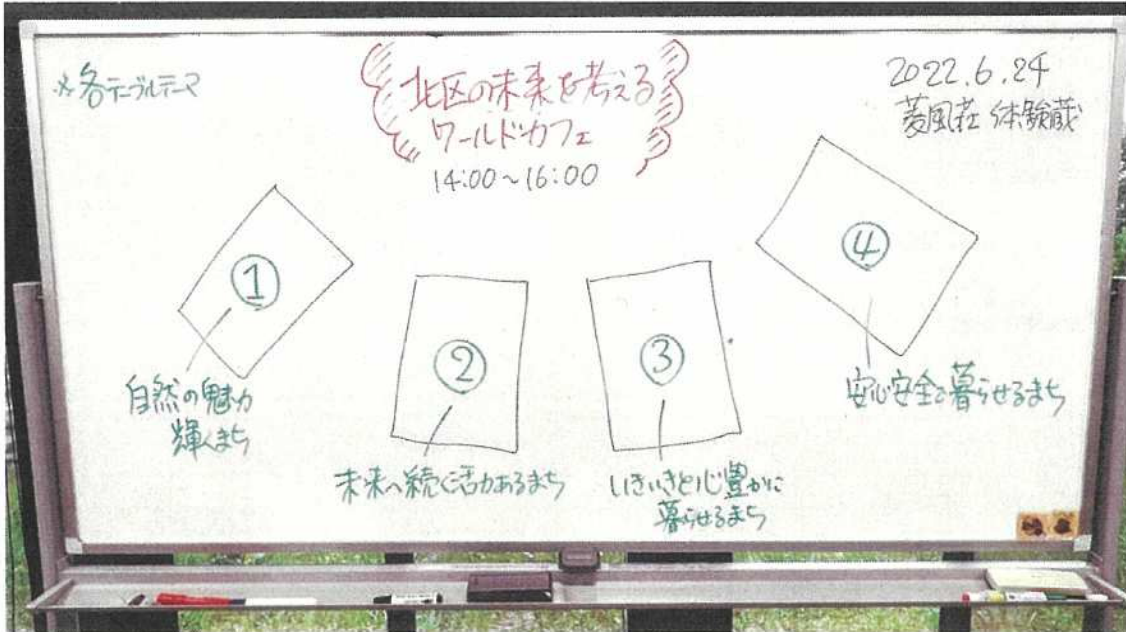
15：55 クロージング

- ・ ふりかえりシートの記入
- ・ 参加のお礼
- ・ 諸連絡

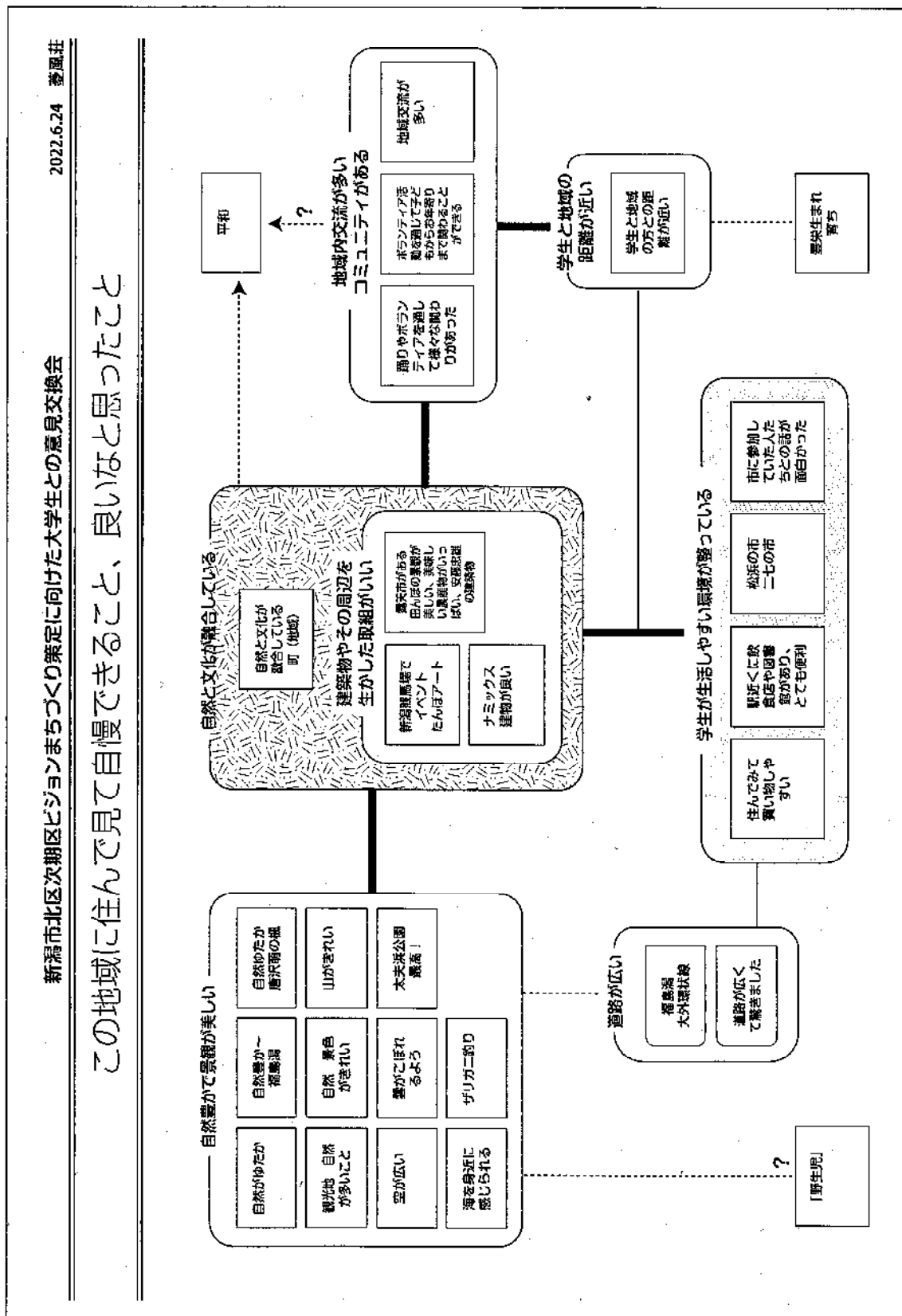
16：00 終了

⑦会場レイアウト

会場構成は下の写真にあるホワイトボードに描いたとおり、1～4までのテーブル（テーマ別）を正面から扇型に配置し、それぞれのテーブルに目指す区のすがたを書いた紙を置いた。



6. ゆるやかな関係づくりゲームで出てきた意見のまとめ



7. 各テーブルで出された意見のまとめ



1グループで出された意見のまとめ

次期北地区ビジョンまちづくり計画ワークショップ〈北区〉

「目指す区のすがた」の実現に向けた取り組みのアイディア

2班 未来へ続く活力あるまち

2022年6月24日（金）14:00～16:00
 / 菱風荘 体験蔵
 ファシリテーター：横尾文子

- 重要な取り組み**
- 商店街（空き店舗）や露天市に大学生が参入しやすいしくみをつくる。専門性を地域還元し、やりたいことに挑戦できる地域交流の場を増やす。
 - 大型クルーズ船や外国人観光客誘致には、北区の本らしい景観も売りにする。東港のおもてなしに大学生サークルが参加する。
 - 地域の小さなイベントや活動に、大学生が気軽に参加する機会を増やす。
 - 生活圏を中心市街地に集約し、便利で快適な公共の移動手段を確保したコンパクトシティを目指す。

豊栄駅周辺で北区らしさを打ち出す。

- 駅のホームを降りてすぐに、「北区」が伝わるPRを。
- 駅前には大学生向けの安価で美味しい店を増やす。

商店街（空き店舗）や露天市に若者が参入しやすいしくみをつくる。大学生の専門性を地域還元し、やりたいことを挑戦できる場を生み出す。

- 露天市の出店者の高齢化対策として、若手の参入に力を入れる。出店スタンプカードなどを活用し、定期的な参加を促す（Amazonギフトカードがもらえる等）。
- 市開催に合わせてオープンする飲食スペースをつくる。
- 学生が参入しやすい（肉巻きおにぎりなど）。
- 学生が参入しやすい（大学生の店：貝殻アークセサリーや古着など）。
- 学生サークルの居場所にする。
- レンタルスペースにして、学生が気軽に使えるようにする。

農家の人手不足・フードロスを解消

- 農家の人手不足の解消。学生に有償バイト募集。
- 空き店舗やスペースでカフェを開き、地元の農産物を活用したメニューを提供する。
- まだ食べられるのに廃棄処分となる農産物を集め、味噌汁をふるまう。

子育て・保育スペースを設置

- 子どもが飛び入りや折り紙ができる体験スペースをおく。

大学生が関わりやすいしくみづくり

- マッチングスペースとして活用。
- 大学が露天市の出店や、空き店舗の活用を促進するアプリを開発しマッチングサイトを作る。

シャッター街に賑わいを

- アーケードもつと明るくする工夫をする。

高齢者の居場所運営・リハビリに大学生が専門性を発揮

- 介護予防講座を開催。医療福祉大の学生が行う。
- 買い物ついでにリハビリにできる場にする。
- 高齢者と交流するボランティア活動の場にする。実習で地域の高齢者と触れ合う機会があったが、お年寄りといっぱい話せるのは嬉しい。
- 居場所への移動が不便な方を送迎ボランティアがサポートする。

大型クルーズ船や外国人観光客誘致には、北区の本らしい景観も売りにする。東港のおもてなしに大学生サークルが参加する。

- 北区の本らしい景観（田園風景や豊かな自然景観）は外国人観光客に魅力のほす。もっとPRする。
- 大学生の和太鼓やよさこいサークルが東港の歓迎会場で演奏を披露する。学生は発表の場を求めているのでWin-Winになる。
- 東港で北区の特産物を販売する。
- 釣り人気。その場で魚を釣ってさばいて食べる釣り場や店を整備する。

地域の小さなイベントや活動に、大学生が気軽に参加する機会を増やす。

- 公園でゲートボールをして人々たちを見てやってみないと思った。学生が気軽に地域と交流できる機会や小さなイベントを増やす。
- 参加ポイントや賞品、割引サービスなど工夫して参加を促す。
- 北区の美味しいものや美しい自然を、学生に知ってもらおう。

生活圏を中心市街地に集約し、便利で快適な公共の移動手段を確保したコンパクトシティを目指す。

- 病院、スーパーなどを集中させ、生活圏を中心市街地へ。コンパクトシティを目指す。公共交通利用を促進し、SDGsに取り組み。
- 運行ダイヤや利用者ニーズに合わせてオンデマンドにする。
- 運転できない高齢者は増える。車移動を減らす。
- 学生は電車利用が多い。バスは便数が少ないため、待ち時間を過ごすフェスを設置する。

2グループで出された意見のまとめ

次期区ビジョンまちづくり計画ワークショップ（北区）

「目指す区のすがた」の実現に向けた取り組みのアイデア 3班 いきいきと心豊かに暮らせるまち

2022年6月24日（金）14:00～16:00
 /菱風荘
 ファシリテーター：渡邊彩

高校生も巻き込みながら大学生がまちづくりに携わる。

- 駅前が賑い。季節ごとに色の違う電飾を、高校生と大学生のボランティアで一緒に飾る。
- 市に大学生のブースを設ける。
- 大学生の強みを生かした内容—例えば物を売るレクチャーを提供する。
- 花を植える、公園の草刈り、田んぼアートなどの活動を一緒にする。
- イルミネーションの場所に季節ごとの人形—サンタ、トナカイなどを置いて、子どもたちが遊べるようにする。

多世代に伝わるように告知方法を工夫する。

- 学生に伝わるように、地域の活動・ボランティア募集の情報を周知する。
- チラシをポストインクする。
- 学生がスタタツになりSNSを活用する。

多世代に伝わるように告知方法を工夫する。

- 医療福祉大のほうはボランティアサークルがあり、募集のメールが届けば協力したい人はいっぱいいる。
- 農業大のほうは学生にとつてのメリットが明確になると参加しやすい。ボランティアとしての参加が履歴書に書けること、また、体育系の活動をしている学生が多いので運動に関するボランティア募集と示すのもあり。
- 大学のオリエンテーションで北地区役所のラインがあることを広報する。
- 区役所のホームページにボランティア募集のページをつくり、協力分野を明確に示す。
- 区便りの情報はわかりやすい。大学の先生からももらった。

多世代に伝わるように告知方法を工夫する。

- 北区は高齢化率が31%と高いわりに、医療介護支援・訪問診療が遅れていく。また、病院も少なく、自分で通院しにくい人も少なくないのはいか。オンライン相談、学生のほうが訪問して専門家につなぐ役割を担うのはどうか。
- 大学自体を拠点に介護予防教室を開催して、大学のバスで迎えに行く。
- 大学生と民生委員が協力して高齢者宅を訪問する。
- 簡単なスポーツ・レクリエーションを行う団体を大学生が作りかわる。

誰でもが立ち寄れるような居場所を作る。

- 公民館、地域でスポーツ・レクリエーションを通して交流する。
 (例) 年齢制限を設けずに毎週土曜日にドッジボール、ソフトテニスなどをする。
- 地区対抗の運動会を開催し、その企画・運営に大学生が携わる。

誰でもが立ち寄れるような居場所を作る。

- 記事の作成・編集・インタビュー等を通じて学生も学ぶことができる。
- いまは障がいがない人も知るようになっている。

大学生が障がい児・者へのサポートをまとめた広報誌を作成する。

- 記事の作成・編集・インタビュー等を通じて学生も学ぶことができる。
- いまは障がいがない人も知るようになっている。

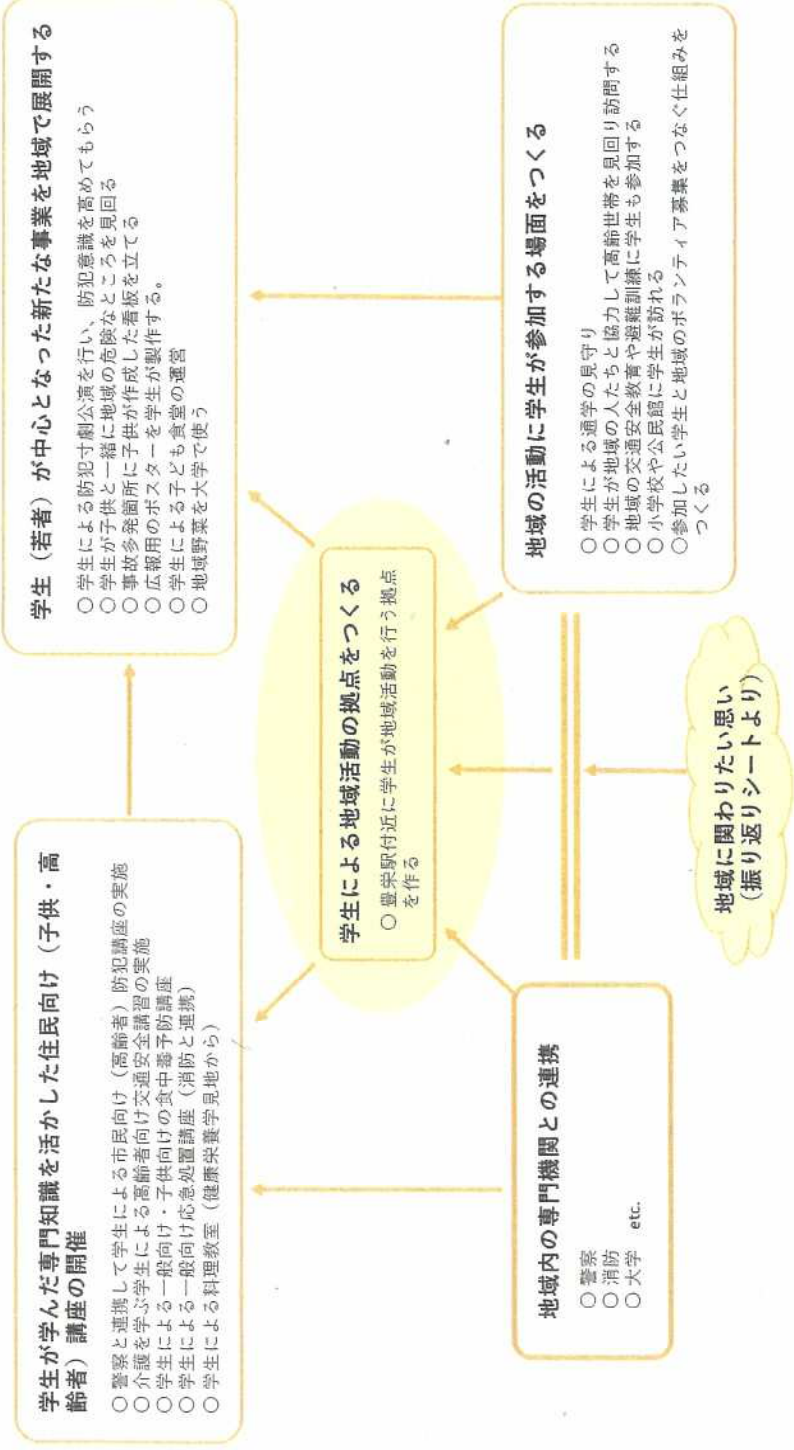
次期区ビジョンまちづくり計画ワークショップ〈北区〉

4班 安全安心で住みよいまち

「目指す区のすがた」の実現に向けた取り組みのアイデア

2022年6月24日 (金) 14:00~16:00
 / 菱風荘 体験蔵
 ファシリテーター：坂本裕一

- 重要な取り組み**
- 地域内の専門機関との連携を図る
 - 学生が地域活動に参加できる仕組みをつくる
 - 学生や専門家等との協働により、新たな事業を展開する



3グループで出された意見のまとめ

5. ふりかえりシートの内容（参加者アンケートの結果）

Q1. 本日のセミナーでどのような気づきがありましたか？

- ・自分では思いもよらなかった発想が次々と出て来たので、このような事が実現できたらいいなと思いました。
- ・区役所が思っていることと医福大が考えていることを実際に聞くことができ自分の中の考えと組み合わせるようなこともあったこと。
- ・他の大学の方や、職員の方との意見を聞いて、北区への関心を持つことができ、自分達の活動へのヒントも得ることができました。
- ・北区が自然豊かであり、地域との交流が深い事を改めて知れた。
- ・田んぼアートで活性化につなげることや、東区の花をPRするホームページ作成などいろいろな意見を知ることができた。
- ・もともとある北区のよさ、そして大学生側からでた改善点を通し北区という大きな町について知ることが出来た。
- ・結構北区の事を知らない人がいた。
- ・まだまだ自分自身北区のことを理解できていないところが多いとわかりました。また自分以外の考えも聞くことだできて良かったです。
- ・北区はさまざまな魅力や課題があり、よりよくしていくことができることに気づきました。
- ・学生ならではの視点で自分一人では思いつかなかったこと（案）が多くでていて、それぞれに共通するものがあつたので面白いなと感じました。
- ・区の職員の方が大学生に協力してほしいと思われていることを知れた。
- ・地域の活動を自分たちで進めていいのだと知れた。
- ・地域のイベントや行事、交通や暮らしについて、大人の方が中心となってまとめているイメージが強かったですが、大学生も関わることで北地区がとても身近にあることを改めて感じられた。
- ・様々な意見・質問を重ねて新しく「こうするべき」とか「こうしたら良い」という事に気づけた。
- ・北区のことで医大の方との連携ができればより良くなるのではと思った。
- ・北区について知らないことが多くあつた。
- ・北区の知らない良いところや、現状の課題等…。
- ・セミナーを通して想いの共有が図られることで「まちづくり人材の育成」も熱を帯びる。

Q2. 今日、あなたが嬉しかったことは何ですか？

- ・緊張していたものの、いざ始まると「あれもいい、これもいい」となって気楽に話し合いができたので嬉しかった。
- ・自分の学校以外の学生と意見を出し合えたこと。
- ・自分とは違った多様な意見を聞き、新しい気づきを得ることができました。自分自身の大学での学びにも生かしていけるような、視野の広がりを実感しました。
- ・楽しく話し合えた。
- ・意見を言った際に「なるほど」「いいね」と評価良かった。

- ・北区の方と他大学の交流を通して自分の普段思っている大学周辺の環境など意見を言えたこと。
- ・出た案を実行することができれば、北区がよりよくなるのではないかと感じた。
- ・他の大学について知ることができた。
- ・多くの新しい発見をすることができたこと。
- ・コーヒーの後味がスッキリしていて美味しかったです。
- ・自分の気づきをいうことができて良かったです。
- ・北区のことを知れたことです。
- ・自分が言ったことに対してほかの方が共感してくれたことです。
- ・その案イネと多くのリアクションがあったので嬉しかったです。
- ・北区のことを詳しく聞く・知ることができた。
- ・自分の意見が採用され、発表に活かしてもらったこと。
- ・今まであまり北区について知る機会がなかったのですが、たくさんの行事や問題点について知ることができたことです。私自身地域の行事に関わりたくて強く思いました。
- ・日頃から顔を合わせている友人たちだけでなく、他の大学の学生と様々な意見を交わせたこと。
- ・たくさんの方と話せて、いろんな考えにふれられたこと。
- ・様々な人と関わった。
- ・医療生や地域の方と話し合い（交流）が持てたこと。

Q3. 今日、あなたが残念に思ったことは何ですか？

- ・時間があっという間だったので、もう少し時間があってもいいなと思いました。
- ・もう少し話し合えるようなこともあったこと。
- ・全てのブースに行けなかったことや、関わったことのない学生ともう少し話し合いをしたかったという点です。
- ・いい町、北区について知らないことが多すぎた。
- ・やっぱりまだ北区のことをあまり知っていない→(大学で) 地域を調べる講義必要？
- ・特にないです。
- ・とくにないです。
- ・もう少し発言できれば良かったです。
- ・まだまだ北区のことを知らなかったことです。
- ・魅力あふれる北区なのに、住民や学生に北区のよさが伝わっていないことです。
- ・討論していると、20分ってあっという間で短いなと感じた。
- ・時間が短く感じたこと。(もっとよりよくなるようまとめたい！)
- ・ないです。
- ・もっと踏み込んだ内容まで話せなかったこと。
- ・もう少し話し合いをしたかった。すべてのグループに行ってみたかった。
- ・全員の方の意見を聞けなかった。
- ・時間が短かったこと。

Q4. 行政と関わる活動に参加したいと思いませんか

■はい 16 ■いいえ 0

◆その理由は？

- ・就活や国家資格の対策で時間は限られているけれど、興味があるので機会があれば1度くらい参加してみたいです。
- ・まだまだ出来たばかりの食農大も他の大学と協力すれば色々できそうだから。
- ・貴重な体験だと思うから。
- ・北区をもっと住み良い場所にしたい。
- ・楽しい。
- ・達成感を得られる。
- ・活動を通して北区のことをもっと知っていきたい。
- ・北区のことをよりよくしていきたいからです。
- ・行政の方と対面でお話する機会があまりないので意見交換することで視野を広げることができると思いました。
- ・地域住民との交流はもちろんボランティア参加者とも交流できるのはとても良い社会勉強になるから。
- ・このような話し合いが好き。
- ・可能な限り地域の人たちと交流を持ちたいから。

Q5. その他、気づいたことなど

- ・また、こういった機会を設けてもいいんじゃないかと思いました。今日はありがとうございました。
- ・学生という立場だからこそ、「大人」を動かせるということ、そこから、地域を良くすることができるということを感じました。
- ・内堀がしっかりしているので、呼び込み等の方に力を入れるべきだと思いました。
- ・コーヒーおいしかったです。